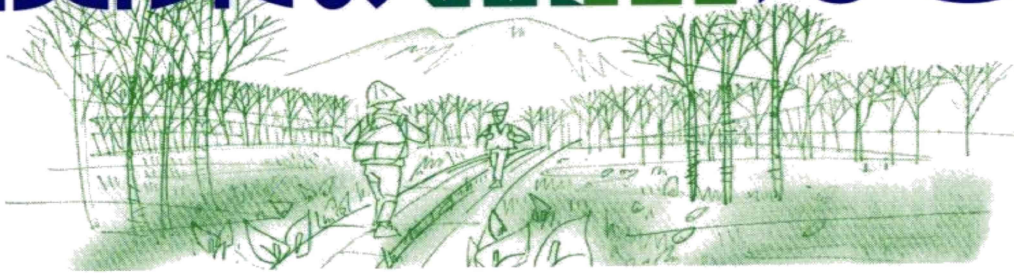


令和2年6月1日

第192号

# 関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://kokuyurin.maff.go.jp/kanto/>



## 高尾山で最古の人工林 「江川スギ」 (高尾山国有林)

(撮影：東京神奈川森林管理署 森林保護員 宮入 芳雄)

- ◎ 「赤谷の森・基本構想2020」の改定等 計画課・・・2
- ◎ 新型コロナウイルス感染症と木材需給動向 資源活用課・・・3
- ◎ 「那須街道アカマツ林」保全の取り組み 保全課・・・4
- ◎ 森づくり最前線 群馬森林管理署 万場・檜原森林事務所 首席森林官 黒澤晴男・・・5
- ◎ 「高尾の森から」 高尾森林ふれあい推進センター・・・6

# 「赤谷の森・基本構想2020」の改定等

計画課

2003年11月に発足した赤谷プロジェクトは、群馬県みなかみ町の北部、新潟県との県境に広がる、約1万ヘクタールの国有林「赤谷の森」を舞台に、生物多様性の復元と持続的な地域づくりを進める取組です。地域住民で組織する「赤谷プロジェクト地域協議会」、「日本自然保護協会」、舞台となる国有林を管理する「林野庁関東森林管理局」の3つのセクターの協働により進めています。

この赤谷プロジェクトは、地域の生物多様性保全と持続的な地域づくりの観点から、本来の自然性を取り戻すエリア、人工林管理を通じて生物多様性を確保するエリア等を設定し、土地本来の生物群集によって構成される環境を産み出す生態学的プロセスを重視し、希少野生生物の生育・生息環境を含めたきめ細かな環境管理を行っています。

赤谷プロジェクトの推進に当たっては、5年に一度、赤谷プロジェクトの基本的な考え方をまとめた「赤谷の森・基本構想」が改定され、「赤谷の森」を含む利根上流森林計画区の国有林の取り扱いを定める地域管理経営計画等に反映されているところです。

2019年度に改定された「赤谷の森・基本構想2020」における主なポイントとしては、次のような点があげられます。

## 1 ニホンジカの低密度管理の推進

赤谷の森における哺乳類相のモニタリング調査から、ニホンジカの出現地点数等が増えていることが確認されており、今後、森林生態系等に大きな影響を与えられる場所が出てくるものと予想されるため、低密度の状態での管理するための捕獲手法の検討と体制づくり等を進めること。



鈹塩によるシカの誘引

## 2 みなかみユネスコエコパークとの連帯強化

2017年に地元のみなかみ町がユネスコエコパークに登録された際に、赤谷プロジェクトの取組がその理念と合致する地域の中核的な取組の一つとして位置づけられたことから、みなかみ町と連携してニホンジカ等の調査を実施するほか、定期的に情報交換や意見交換を行うこと。



桐の植栽

### 3 これまでの取り組みから得られた新たな知見の発信を推進

これまでの赤谷プロジェクトで実施してきた、イヌワシ狩場創出試験や自然林復元試験等から得られた知見を集約し、情報発信を進めること。



イヌワシの狩場創出試験地

### 4 「森の恵み」を活用した地域産業活性化の取組を推進

地域の木工業者と連携した桐の植栽試験の実施や、赤谷の森の広葉樹を利用したカスタネット生産の推進等を実施すること。

今後、この基本構想を踏まえて、本年度、地域管理経営計画等を策定するほか、ニホンジカの誘引捕獲試験等を実施することとしています。



地域木材によるカスタネット

## 新型コロナウイルス感染症と木材需要動向

森林整備部 資源活用課

### 【国有林材供給調整検討委員会の開催】

関東森林管理局では、管内の森林・林業・木材産業においても新型コロナウイルス感染症拡大の影響が懸念されることから、各委員へ資料の送付及び意見照会により「臨時の関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会」を開催し、木材の需給動向、国有林材の供給調整の必要性について検討しました。

委員会では、「新型コロナウイルスの影響により、製材品や合板類の荷動きが鈍化傾向にあり、既に管内の大型製材工場が減産を実施、原木の搬入制限等の動きが出始めており、こうした動きを受け国有林の立木販売契約者も搬出延期を希望する事例も発生している（また、原木価格も下落傾向にある）。



このような中、国有林の立木販売契約で定められた搬出期間に拘束され、売り先のないまま伐採、搬出された場合は、供給過剰となり、今後の木材価格に影響が想定されること、さらに、一連の影響は当面続く見通しであり、現時点で、立木販売の搬出延期による国有林材の供給調整が必要である。」との検討結果となりました。

木材需給を取り巻く情勢は、日々変化しているため、川上・川中・川下の各事業者から、毎週聞き取りを行い、国有林として必要な対応が迅速に図れるよう情報収集を行って参ります。

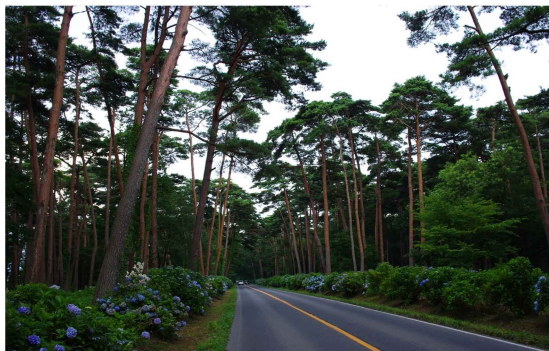
# 「那須街道アカマツ林」保全の取り組み

保全課

塩那森林管理署が管理する「那須街道アカマツ林」は、栃木県北東部の那須郡那須町に位置し、明治34年に旧宮内省の御料林となり昭和22年に林野庁所管の国有林に所管換えされました。

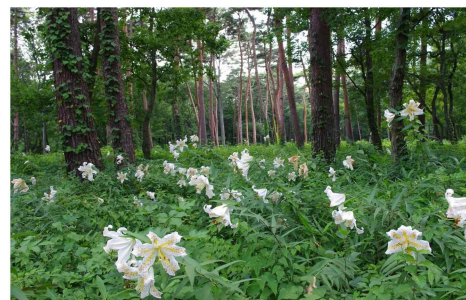
約79HA（東京ドーム17個分）の広大なアカマツの天然林で、樹齢100年を超える大木が約2.5KMにわたって街道の両側に広がり、「とちぎの景勝百選」にも選ばれ一年を通じて多くの方に広く親しまれています。

しかしながら、昭和50年代に入って「松くい虫」による松枯れの被害が出始めたことから、貴重なアカマツを守るため「松枯れ予防薬剤」の「地上散布」及び「樹幹注入」に加え、松枯れ被害木の「伐倒駆除（衛生伐）」の防除事業を行うとともに遺伝子の攪乱（かくらん）を防ぐため区域内のアカマツの種子を採取し養苗した苗木を提供し、「植栽」、「地搔き」、「刈り出し」等のボランティア団体による保全活動を受け入れています。



赤松林とアジサイ

赤松林とヤマユリ



地上散布



樹幹注入



アカマツ苗生育状況



那須YMCA植樹



アカマツの森づくり

令和元年度では、「松くい虫被害防止対策」として、「薬剤地上散布」、「薬剤樹幹注入」、「衛生伐」といった森林整備事業のほかアカマツ後継樹育成のための下刈も実施しました。また、ボランティア団体による「植栽」等の保全活動を4回実施し、さらに猛禽類が生息しやすい環境を形成することも目的としたNPO法人との共催事業「2019アカマツの森づくり」を開催しました。

「伐倒駆除（衛生伐）」により毎年200本弱のアカマツ大径木の伐倒が行われ、近年母樹となるアカマツの少ない区域が見られるようになったことから、「那須街道アカマツ林」を後世に引き継ぐために、継続的な保全活動とともに次世代のアカマツを育てていく取組が一層必要となります。

# 森づくり最前線

群馬森林管理署 万場・檜原森林事務所

首席森林官 黒澤 晴男



檜原森林事務所

檜原森林事務所は、上毛カルタで読まれている「鶴舞う形の群馬県」の右翼部分の上野村内に位置しており上野村と神流町、藤岡市の一部を管轄しています。管内の国有林の面積は約9400haです。森林事務所の職員は首席森林官1名、森林技術員1名、行政専門員1名の3名体制となっています。当森林事務所管内での過去の出来事としては、歴史的な大ニュースとして、群馬県と長野県境に位置している御巢鷹山国有林の山中に日航ジャンボ機が墜落し、多くの尊い人命が失われる大惨事が発生しました。その事故から34年経過した今でも御巢鷹山への慰霊登山及び慰霊行事が毎年行われてきています。



御巢鷹山登山道

さて当森林事務所の管内では近年、造林木への獣害が特にひどく、多大な獣害対策費を費やしております。特にニホンジカやカモシカ等が多く、なにもしなければスギやヒノキ等は植えた側から食い荒らされてしまいます。被害を最小限に抑えるため造林地周辺に防護柵を作ったり、単木保護として造林木1本毎にクワンタイ等のシェルターを設置したりして保護していますが、獣害対策の経費が予想以上にかかり大変な状況となっています。

以前だったら伐採跡地に地拵えをして植栽し、その年の夏に下刈をしてという流れでしたが、地拵えと同時にシカ柵等の設置作業を

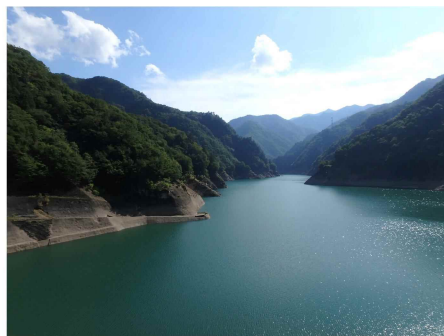
行い、その後に植付けという工程にならざるを得ません。これも自然環境の変化による造林作業種の追加ということなのでしょう。時代にあった森林施業を着実に実施していく以外に方法はありません。



シカ単木保護状況  
(鍋割国有林43林班)

また、昨年は台風19号により民有林だけでなく国有林の林道も想定外の被害を受け、獣害対策をしなければならない造林地までの林道等が閉ざされてしまいました。林道等の被害調査は徒歩により行いましたが、被害の確認ができるまで相当な時間がかかりました。このように近年の災害は、100年に一度といわれるほどに巨大化し、長時間の異常な降雨による激甚災害を東日本全域にもたらしています。この傾向はこれからも頻りに起こる災害であると推測されます。以前でしたら伐採したらある程度の期間は再造林をしなくても山づくりができたと思いますが、これほど毎年の異常災害を受ける時代になると、伐採した跡地の更新は早急に復元してやらないと災害の原因を作ってしまう恐れがあると思います。特に皆伐箇所跡地で急傾斜地の場所は、更新を早める必要があると感じています。

今は以前よりいっそうの自然災害に強い山づくりが求められていると感じています。これからも国民から信頼される森林づくりを目指して業務に励んでまいりたいと思います。



上野ダム付近より  
本谷国有林  
71林班方面の眺望

# 高尾の森から



手づくりの  
蜂誘引捕獲器

高尾森林ふれあい推進センターでは、多くの方に森林や林業に対する理解を深め、森林に親しんでいただくために、高尾山の国有林と施設を活用して、様々なイベントを実施しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、教育機関向けの森林教室やクラフト体験の中止、森林カレッジ第一回目の中止、春に予定している協定イベント等が中止となっている状況です。

現在、収束の見通しは立っていませんが、収束後には森林教室等に素早く対応できるよう職員一同準備を進めているところです。

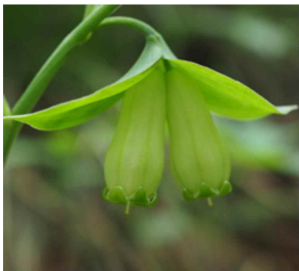
また、日影沢キャンプ場や森林散策ルートには「蜂誘引捕獲器」を設置。入山に備え安全確保に努めています。

センサーカメラによるニホンジカの調査は継続して実施しています。

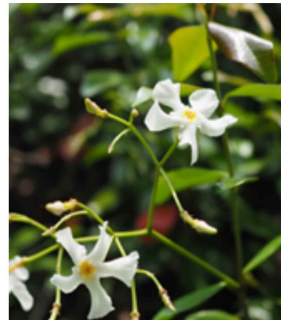
ニホンジカ



現在、自粛要請が出されているので、この季節の植物を紹介しますので、お楽しみください。

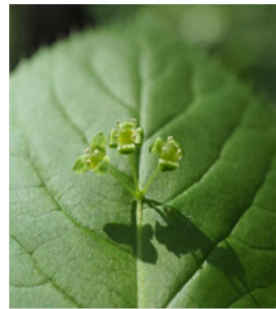
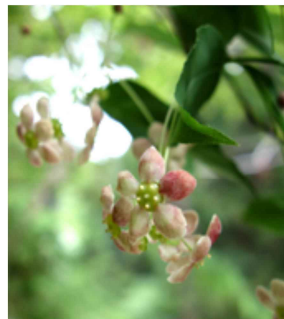


**ワニグチソウ** (キジカクシ科)  
花期5～6月、2個の苞が神社につす  
鰐口に似ていることから名付けられた。

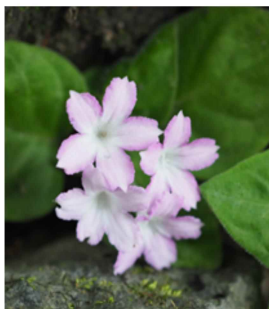


**テイカカズラ**  
(キョウチクトウ科)  
花期5～6月、藤原定家が  
死後、愛する彼女の墓に葛  
となって絡みついたという  
伝説から名付けられた。

**ツリバナ** (ニシキギ科)  
花期5～6月、花をつり下げる様子  
から名付けられた。



**ハナイカダ**  
(ハナイカダ科)  
花期5～6月、雌雄異株、  
花を乗せた葉を筏に見立て  
た様子から名付けられた。



**イナモリソウ** (アカネ科)  
花期5～6月、最初の発見地が三重県の  
稲盛谷だったことから名付けられた。

※各植物の名付けについては諸説あります。

発行所 関東森林管理局  
編集 総務課  
TEL (027) 210-1158  
FAX (027) 203-1393

## 今月の表紙 「雨上がりの江川スギ」 (高尾山最古の人工林)

林野庁「日本美しの森 お薦め国有林」であり、年間約260万人が訪れる高尾山山頂近くに高尾山最古の人工林「江川スギ」があります。樹齢約150年、江戸時代末期の蕪山代官、第36代江川太郎左衛門(英龍)によるものです。英龍は民政の改革と海防の充実に尽力し、品川台場(お台場)や蕪山反射炉などにその功績を残しています。また、日本で初めてパン(乾パン)を焼いた「パン祖」でもあります。そんな英龍が植林したうっそうと立つ江川スギを見上げると、高尾山の歴史の重みを感じます。

